

2019年6月20日

社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ  
第9回全体会合 議事録

## 1. 実施概要

日時：2019年6月20日（木）9:30-11:35

場所：日本財団2階大会議室

## 2. 各WG報告（※スライド資料参照）

### 【資金提供者WG】

- ・ 資金提供者に特化してインパクト志向（事業の成果に着目した運営）のあり方を検討するWG。
- ・ どうしたらインパクトを高められる資金提供の方法があるかを検討している。  
例）審査の中にロジックモデルを導入（トヨタ財団）
- ・ 資金提供側と事業先、それぞれがどうインパクトを創出しているのか、という両面の切り口があるため、両方の事例を可視化。  
例）デューデリジェンス：どんなプロセス、ツールを使っているのかの可視化等
- ・ 事例は、助成の規模等、バリエーションが出るようにヒアリングを実施し、事例集としてまとめている。

（ロードマップについて）

- ・ 2019年度の活動にあたって、修正を加えたい。
- ・ 当初のロードマップには、申請書類にロジックモデルを組み込む等の審査の方法や、報告書の作成等の報告の指針といったことを想定していた。
- ・ しかし、上記では細かすぎたというのがWGメンバーの結論。よって、ロードマップ全体を、事業の改善、マネジメントにどう活用するかという内容に改訂した。
- ・ また、事例の可視化・共有を行ってみて、団体によってやり方が異なることにより、標準化は難しいということが分かった。資金提供者の社会的インパクトを事業のマネジメントにも生かす方法を促していった方がいいと変更している。
- ・ SIMI以外にもインパクト評価をやっているという動きがある。（ソーシャル・エクイティ・ファイナンスの勉強会等。）レポートをどうするか、といった類いの議論を行っているので、連携の方法を模索したい。

(今後の実施内容)

- ・ オープンセミナー：社会的インパクトを活用していくためのセミナーの実施
- ・ クローズドの勉強会：類似の動きをする他団体と連携して実施したい。

### 【社会的認知 WG】

(ロードマップについて)

- ・ 本 WG では、発信強化が主題。各 WG の成果物の発信、概念を発信する。
- ・ 昨年のロードマップには、学校等への普及が入っていたが、NPO 側にも認知が広がりきっていない現状の中、子供たち向けの社会的インパクト評価の教育実施は早すぎると判断、除外した。

(活動目標)

- ・ 新規に社会的インパクト評価を学びたい人から、「事例を知りたい」という要望が多数。読み物としても分かりやすい、事例のコンテンツ化に取り組みたい。
- ・ イベント・講演の地域での開催を今年度は力をいれてやっていく予定。
- ・ 休眠預金により社会的インパクト評価への認知が高まっている。SNS 等を通じて積極的に発信予定。
- ・ 表彰制度なども、コンテンツ化により、広く情報提供し認知を広めていきたい。
- ・ 関係者インタビュー等を通じて、コンテンツを整理したい。団体が情報発信しているが、社会的インパクト・マネジメントの観点で発信されているところは少ないので、SIMI の観点で整理していきたい。(今年度の目標は、企業 5 事例、NPO 5 事例、計 10 事例)
- ・ 入門編セミナーの開催。昨年 5 月にセミナー講師派遣プログラムを開始。社会的インパクトマネジメントのセミナー講師として SIMI メンバーが地方へ出向く。地域の NPO センター等が主催。既に 4 自治体（長野・北海道・宮城・愛知）で開催予定。
- ・ 表彰による事業の周知を事例蓄積・活用 WG と連携して実施。
- ・ メディアの活用。社会的インパクトマネジメントのコンテンツを作って、マスメディアの方に関心を持っていただきたい。

### 【人材 WG】

- ・ 評価に関わる人材育成を SIMI のプラットフォームでサポートしていけるか、が主題。
- ・ 社会的活動にたいして広範な領域の評価が出来る人材を可視化する。
- ・ 大学等において、社会的インパクト評価を実施する等、コンテンツは既にある。問題は社会的インパクトマネジメントに繋がっていないことと認識している。

(ロードマップについて)

- ・ 改訂点は「SIMI が独自セミナーを実施するのではなく、実施機関と連携し、その実施

をサポートする」と明確に記載した点（昨年も記載されていたが、その方針を明確化させた）。

- ・ SIMI メンバーや関連機関が研修を実施するのをサポートする、というのが SIMI の役割と認識している。

（今年度の取り組み）

- ・ 目標は変更なし。
- ・ 基礎研修 1,000 人修了は、さまざまなセミナーが実施されているため、それほどハードルが高い目標とは考えていない。
- ・ 昨年度は、評価研修を行っている団体のリサーチとリストアップを実施。SIMI のウェブサイトの改訂に伴って掲載し、ワンストップで情報が見られるようする予定。
- ・ ロスター登録制度。網羅的に評価人材についてリストアップを行う。

（今年度の取り組み）

- ・ 受講者数を促進するために、講座の告知をお手伝いすることを積極的にしたい。
- ・ セミナー告知に協力するところには、共通のアンケートを実施。ウェブサイト等に記載する等で質の担保が測れるかを試験的に実施したい。
- ・ インパクトマネジメントに必要なスキル（統計、PCM 研修等）をリストアップして専門スキルを網羅した形でウェブに掲載。
- ・ 関連書籍等のリストアップ
- ・ ロスター登録制度への登録を促す。

### 【アウトカム・指標作成 WG】

- ・ ツールセットの開発等、インフラ整備が本 WG の主な実施内容。
- ・ ライザップグループ等の外部有識者を入れて、小 WG を作って 4 分野で開発を進めた。7 月のインパクトデイまでにはウェブサイトに掲載予定。
- ・ 来年度は新規のツールセット開発は行わない。ツールセットを使用した結果のフィードバックを得て、開発したものに関して見直しを行う。もともとバージョンアップを積み重ねていく想定だった。  
例) 各ツールでケーススタディを掲載しているが、ケースの充実、設問項目の充実等を測る。
- ・ ウェブサイトの全面改訂を計画。様々なコンテンツが掲載されているものを使いやすいように再構築していこうと思っている。PDF でダウンロードできるようになっているが、海外のサイトを参考にダイレクトに情報を取得できるような、ユーザビリティが高いサイトを作りたい。

- ・ 12分野を作ってみて、各分野で共通指標がある。ソーシャルキャピタル・地域、まちづくりなど横断的な指標を作っている。色々な社会問題が複合するツールセットを作っている関係で、重なっている。この事業領域であれば、どのツールセットを使える、というのを整理したい。
- ・ ツールセットについて、内容が無断使用になっていないか、著作権関係の確認作業を進めたい。

#### 【事例蓄積・活用WG】

- ・ 事例を集めることだけでなく、活用されているという状態を目指している。
- ・ 1,000事例が活用されている状態を作るために、事例の公開・評価実施の促進・評価プロセスの学びの共有を行う
- ・ 公開のインセンティブの設計・ベストプラクティスの表彰：評価者・事業者からの推薦があがるような状況を作りたい。
- ・ 事例が100程度、集まってきているが、実際に使える事例は何か等、優良事例を考えるためにヒアリング等を実施予定。
- ・ 社会的インパクト評価をマネジメントに活用している団体にヒアリングを実施予定。
- ・ 問題意識は、事例数が多いことが必ずしも使いやすいものとは限らない、質が高くイメージが湧くものにしたい。

#### 【ガイドラインWG】

- ・ 現在、活動休止中。
- ・ 昨年、フレームワークを発表。昨年6月にフレームワークを提示したので、WGでガイドラインを作成した。
- ・ セミナーを開催するためのパワーポイント等作成、ウェブに掲載済み
- ・ 今後は、各方面からのフィードバック元に、ステークホルダー別のガイドラインを作るなど、様々な方向を検討中。
- ・ 講師派遣制度を使用したセミナーの地方開催での実施を経て、フィードバックを元にパワーポイントの改訂等を実施予定。

### 3. アワードについて

- ・ 優良事例の発掘、事例公開のインセンティブになることが目的。
- ・ 優良事例のみではなく、スターターの人々も表彰したい。マネジメントまで活用した事例から、「ロジックモデル作った」等の初期段階も含めて表彰したい（分野の分け方は要検討）。
- ・ 応募主体は事業者のイメージ。

- ・ 審査体系をきちんと設けたい。(審査員の選定など) 評価の中身を検討することから関わっていく。
- ・ 2019 年末ぐらいには、SIMI ウェブサイトやイベント等で告知をはじめ、次回のソーシャル・インパクト・デイで表彰を実施したい。
- ・ 積極的に手をあげてもらうために副賞を用意したいと思っている。
- ・ インパクトマネジメントに何か繋がる副賞が良い(事業者の立場に立って、インセンティブになるもの)。  
※会場内で副賞のアイデア出しを実施。

#### 4. 全体共有・感想質疑(会場からの感想共有および質疑。)

- ・ WG が分かれていることもあって、テーマがそれぞれ共有できていないのではないかな。全体共有の強化が必要なのではと思った。
- ・ 資金提供者 WG のところで、プレイヤーのマッピングがあったが、SIMI 参加者のプレイヤーマップみたいのを作ると、各 WG に参加している人はどのポジションの人なのか、偏りがあるのかということが分かるのではないかな。
- ・ 企業側として社会的インパクトは利益とバッティングしやすい部分だが、SIMI と共通言語を持つことで、経営陣とディスカッションできるといいと感じた。
- ・ 社会的インパクト評価を浸透させるという目標を持った時に、入門研修 1,000 人は少ないのではないかな。
- ・ 事例の記事をウェブサイトに掲載しても検索上位にあがらなければ意味がないので、認知度向上も必要。
- ・ 現場で評価を使っている事業者の参加が必要ではないかな。本来の社会的インパクトマネジメントの意味は現場の人が改善して、インパクトを大きくすることに目標があるので、SIMI として参加を促す取り組みが必要なのではないかな。
- ・ 分かりやすい文脈で伝えていく必要がある。今は、一般的に広く知ってもらうイメージで進めていたが、事業者や各ステークホルダー別にあわせたものを実施していく必要があるのではないかなと感じた。
- ・ メンバーが空き時間を捻出しながら、これだけのハイクオリティなアウトプットを作っていることは非常に尊いと感じた。
- ・ 事業者のやる気スイッチの入れ方について検討が必要ではないかな。
- ・ 優良事例と、スターター事例の表彰は外から見た時に、質の低いものを表彰しているように外部から見られる可能性を懸念。「優良事例」と「スターター部門」、誤解がないネーミングで発信する必要がある。
- ・ 副賞についても、海外の事例を参考に「事業者の自費では参加しにくい研修に参加できる」等があるといいのでは。(例)GIIN のインパクトマネジメント研修(参加費 100 万)

等

- ・ これだけ進んでいるのに、SIMI 自体の認知度が低いのではないか。
- ・ 事例紹介に力をいれていく、という話があったが、それは非常に重要だと感じた。社会的インパクトマネジメントを使いたいと思うかどうかは、「こういう風に来るんだ」と気づいた時だと思うので間口を広げるのは良いと思う。
- ・ 事例および評価実施時の質の担保と間口の広がり、両方を慎重に進める必要がある。

#### 5. Social Impact Day2019 について

- ・ 7月2日に開催予定
- ・ 4年目の今年は、「社会的インパクトマネジメントの実践」というテーマで実施。国内外の事例等を公表。
- ・ 第2部のパネルディスカッションでは、投資する側、評価する側で、社会的インパクト評価を活用して、その先どう変化につなげていくのかといった点について、具体的な事例や課題・学びについて議論予定。

・

#### 6. SIMI の運営について

SIMI の活動をより活発にしていくために必要なことについて参加者で協議。以下の3つの間について小グループでディスカッション、共有。アンケート用紙に回答。

問：(アンケート結果は別添を参照)

1. SIMI に参加する目的や期待すること
2. 実際に感じていることや問題と思うこと
3. より良くしていくための提案

以上